

# 目次

口絵	
序	
凡例	
総合解説	1
第一章 名古屋と熱田	13
第一節 名古屋の町人地とインフラ整備	14
町の成り立ち／堀川と名古屋／都市の公共性／家並と家並図	
第二節 名古屋の町制と住民生活	43
町の制度と機構／都市の変化と住民生活／借家と家守	
第三節 熱田と宮	77
門前町熱田と周辺村／町の制度と機構／熱田に暮らす人々	
第二章 村と地域	109
第一節 村の運営	110
村の成り立ち／村の政治／村の財政	
第二節 村と百姓の負担	137
年貢と諸役銀／先納金と調達金／村役	

第三節	城下と周辺村々……………	163
	町のひろがりへの対応／町・村にひろがる名古屋新田／ 地域の諸問題への対応／地域指導層の記録	
第三章	新田と山・川……………	199
第一節	新田……………	200
	新田開発／新田村落／新田経営	
第二節	山林……………	221
	定納山・御林／山の管理／植田山	
第三節	河川……………	238
	河川／河川の管理／杵・橋	
第四節	用排水……………	259
	用水と排水／雨池／井領米／井筋・井組／用水をめぐる争い	
第四章	経済……………	275
第一節	生業……………	276
	農業・漁業・塩業／特産物の生産と販売	
第二節	商人と株仲間……………	293
	商人の由緒と系譜／株仲間の組織と運営	
第三節	商家経営……………	299

店則と奉公人／商家の帳簿	
第四節 市場と商取引	312
運上金／魚と野菜／炭薪と肥料／酒造と尾州糠／木綿と繰綿	
第五節 物価と金融	345
物価／金融	
第五章 交通	361
第一節 陸上交通	362
東海道／名古屋と脇往還／中馬と信州／飛脚・定宿講	
第二節 水上交通	394
熱田湊と河川水運／廻船と伊勢湾海運	
第六章 寺院と神社	421
第一節 寺社の組織と運営	422
本末関係／神職の仲間／尼・堂守	
第二節 地域社会と寺社	451
信仰と祈願／寺社領等の経営／広域的な信仰	
第三節 熱田社	477
神職の活動／社僧の活動／熱田と結ぶ諸社	
第七章 生活	507

第一節	家……………	508
由緒と家格／家の相続／家の記録		
第二節	家族……………	541
冠婚葬祭と通過儀礼／家族のあり方		
第三節	暮らし……………	555
家作と家財／日々の暮らし		
第八章	社会……………	589
第一節	身分と諸集団……………	590
さまざまな身分／諸集団		
第二節	社会の秩序と変容……………	605
社会の成り立ち／社会の諸相		
第三節	災害……………	626
地震／風水害／飢饉		
第四節	幕末の世相……………	659
政局と地域／増加する負担／人心の動揺		
第九章	文化……………	685
第一節	学習とたしなみ……………	686
学びの場／諸芸／読書のひろがり		

第二節	俳諧にみる地域	709
第三節	医 療	717
第四節	祭礼と民俗	721
	祭礼／農耕儀礼／町・村の民俗	
第五節	文化の交流	744
	名古屋のにぎわい／人・モノの交流	
第十章	鳴 海	773
第一節	鳴海代官所と地域	774
	鳴海代官所／鳴海村の様相	
第二節	鳴海の交通と産業	808
	鳴海宿と東海道／鳴海の産業と経済	
第三節	鳴海の祭礼と文化	832
	鳴海の祭礼と文化／鳴海俳壇	
解説		855
史料群解説		955
あとがき		975
執筆分担		977

資料提供者及び協力者	978
愛知県史編さん関係者名簿	981
掲載史料編年一覧	988

# 細目次

## 第一章 名古屋と熱田

### 第一節 名古屋の町人地とインフラ整備

#### 一 町の成り立ち

- 1 名古屋西水主町に所持する屋敷の空き地に借家を増築したきにつき願書写(明和三年四月)……………14
- 2 名古屋橋町以外において古鉄商売を禁止する同町代清六宛申渡し書(寛文八年十一月)……………19
- 3 古鉄古道具屋商売に関する名古屋町々宛触書写(安永元年から三年)……………19
- 4 名古屋橋町より商職人へ商売に関する定書(西正月)……………23
- 二 堀川と名古屋
  - 5 底高で荷船通行支障につき堀川の川浚えを求める名古屋米穀問屋惣代宛願書写(文化十三年三月)……………24
  - 6 五条橋修復に関する一件記録(明治二年・三年)……………26
  - 7 堀川浚えにより撤去された台秤の再設置を求める上材木町町代ほかより修繕方宛願書写(明治三年)……………27
  - 8 名古屋下材木町・元材木町・上材木町の木場屋敷図面……………30
  - 9 熱田役所貸付金拝借につき志水家蔵屋敷内今井富太郎より願書写(天保六年)五月……………30
  - 10 堀川浚え負担金鍵一つにつき一か月二文上納につき両蔵屋敷支配人より届書写(嘉永二年)三月……………32
- 三 都市の公共性
  - 11 井戸造作における手間賃などの書上(文化十四年二月)……………32
  - 12 勝手造作の孫井戸に替わり不用の井戸を譲り受け運上上納とするにつき書上(嘉永元年三月)……………33
  - 13 名古屋広井小鳥町悪水等排水場なきにつき前溝取立の交渉を求める願書写(安政五年六月・十二月)……………33

- 14 末寺名古屋東寺町宝泉寺内の地子につき吟味を求める密藏院より願書写(正徳二年六月)……………35
- 15 往還に悪水溢れるため通行難渋につき嵩上げを求める春日井郡中杉村より願書控(文久二年二月)……………35
- 16 名古屋町々の火消し組の消火体制についての規定書(承応二年二月)……………36

#### 四 家並と家並図

- 17 名古屋茶屋町屋敷の移転に関する同町年寄より町奉行宛届書控(万治二年七月)……………40
- 18 「張州府志」改正に伴い作成した名古屋塩町の家持と借家に関する書上(寛政六年十一月)……………41
- 19 名古屋笹屋町家並全図表書(享和三年八月)……………42

### 第二節 名古屋の町制と住民生活

#### 一 町の制度と機構

- 20 名古屋飯田町の入用帳下書(文化十一年十二月)……………43
- 21 名古屋末広町家持による儉約に関する取決め書(嘉永五年十月)……………44
- 22 名古屋五条町内諸規定書写(文久三年十二月改)……………49
- 23 名古屋蛸屋町の町内規定書写(文化十四年改)……………52
- 24 名古屋飯田町の町法縮り方定書(文政十一年九月)……………55
- 25 名古屋飯田町諸向用心のため夜番所番人の新規取立てを求める同町惣代より願書控(丑二月)……………58
- 26 名古屋葭町の年中行事……………59
- 二 都市の変化と住民生活
  - 27 天王立符の馳走町内一統にて取扱いたい旨名古屋西水主町若者より申出書写(安永五年六月)……………66
  - 28 建中寺門前地武家屋敷となるにつき替地および地子に関する申上げ書下書……………69

29	名古屋南天道町の髪結株および髪結床を担保とした借用証文 （慶応二年九月）……………	70
30	名古屋伏見町庄屋宿の宿代未払いにつき町奉行所宛嘆願書写 （辰十月）……………	71
	三 借家と家守	
31	犬山屋分左衛門所持の名古屋正方寺町借家の請状 （享保八年八月）……………	72
32	志水屋又兵衛所持の借家請状雛形（天明元年九月）……………	73
33	境内地拡張につき寺社奉行所への取次を求める名古屋袋町福 生院より本寺宛願書（嘉永三年八月）……………	73
34	水口屋伝兵衛所持の借家賃覚帳（抄）（酉年）……………	74
	第三節 熱田と宮	
	一 門前町熱田と周辺村	
35	熱田奉行へ支配替につきこれまで通りの年貢を求める熱田新 尾頭町新七より願書控（寛延二年四月）……………	77
36	熱田神領の小作人への諸通知洩らさぬよう申し渡す旨寺社奉 行より通知書写（文化九年六月）……………	77
37	小作への貸米を大宮司家へ出願につき熱田神領地持惣代より 熱田奉行所宛届書写（天保七年十二月）……………	78
	二 町の制度と機構	
38	火の元についての熱田奉行よりの申渡しに対する熱田町内惣 連判帳（宝暦十二年閏四月）……………	79
39	熱田町々ほかで出火した際の体制についての定書写 （明和四年）……………	82
40	家中儉約延長につき熱田町々への触書写 （安永元年）十二月……………	87
41	熱田旗屋町の町内諸事覚控帳（天明二年十月より）……………	88
42	夜番および引摺番油断なく勤めるよう熱田奉行所より申渡し 書写（文化十年十二月）……………	100
43	熱田神戸町の町内取集物惣目録（安政頃）……………	101
	三 熱田に暮らす人々	
44	味噌溜り価格安定のため締役任命につき熱田市場町代らよ り熱田奉行所宛願書（安政二年十月）……………	101
45	宮宿助郷負担につき助郷村二〇か村庄屋より大代官役所宛願 書写（安政五年九月）……………	102
46	職年限延長および冥加金年三両上納につき洗湯職締役より熱 田奉行所宛願書写（慶応三年六月）……………	106
47	熱田における酒せり売に関する名古屋酒屋より酒屋年行事衆 宛口上書写（丑四月）……………	107
	第二章 村と地域	
	第一節 村の運営	
	一 村の成り立ち	
48	作子町・江川町地子免などにつき愛知郡名古屋村頭百姓惣代 より願書写（抄）（嘉永七年七月）……………	110
49	福田新田東福田分への漁船譲渡差止めにつき下之一色村より 大代官役所宛願書写（嘉永五年十二月）……………	113
50	瀬戸焼など荷車差止め願の経緯につき春日井郡ほか村々より 水野代官所宛届書写（文政三年九月）……………	113
	二 村の政治	
51	庄屋後役を入札では立てず前庄屋俸に任せたまにつき愛知郡 前津小林村より願書写（寛保二年二月）……………	116
52	春日井郡新福寺村庄屋役適任者につき大矢作左衛門より大代 官役所宛届書写（慶応三年）……………	116
53	春日井郡中志段味村庄屋の役儀心得帳写（抄） （文政十三年六月）……………	117
54	春日井郡中杉村庄屋の引継目録（慶応二年二月）……………	119
55	海東郡戸田村風儀改につき高掟を反掟とした定書写 （文政三年六月）……………	121



69	春日井郡下飯田村より大代官役所宛天保期調達金未返済額届書控(嘉永六年三月)……………	150
68	知多郡大高村三役銀を担保とした先納金割合帳(抄) (嘉永二年三月)……………	149
67	給人からの先納金返済滞りにつき春日井郡下飯田村伊三郎より大代官役所宛願書写(安政六年五月)……………	148
66	愛知郡末森村給人石川氏の組庄屋より小塚源兵衛取次宛借用証文(天保六年十一月)……………	147
65	上納物拒否の百姓に説諭を求める春日井郡瀬古村庄屋より大代官役所宛願書控(嘉永四年十月)……………	146
64	春日井郡中杉村上納金請取帳(抄)(元治元年十二月)……………	145
63	小笠原氏宛願書写(嘉永三年十二月)……………	144
62	御救いおよび拝借金につき愛知郡八事村より大代官役所宛願書控(文化十三年十二月)……………	142
61	春日井郡小幡村年貢米上納帳(抄)(嘉永二年十一月)……………	137
60	知多郡大高村下用取替帳(抄)(安政六年十一月)……………	133

第二節 村と百姓の負担

一年貢と諸役銀

74	往来通りへ出屋敷家作したきにつき愛知郡前津小林村より郡奉行宛願書写(享保十八年六月)……………	163
75	薬湯風呂屋営みたきにつき愛知郡前津小林村大工長三郎より願書写(寛保元年十一月)……………	163
76	町統き家密集により灰宿廃止につき愛知郡前津小林村より郡奉行所宛届書写(延享元年八月)……………	164
77	春日井郡中杉村送り一札判取帳(抄)(天保六年より)……………	165
78	春日井郡中杉村の地子地借家および借家住人の引請証文(文政十二年八月)……………	168
79	春日井郡中杉村番所木戸諸人用帳(抄)(元治元年十二月)……………	169
80	春日井郡中杉村四軒家木戸番所諸費用分担金の計算書(元治元年十二月)……………	170
81	不淨代引下げの触流しにつき春日井郡児玉村庄屋長蔵より大代官役所宛願書控(嘉永二年十二月)……………	172
82	八日より十三日までの不淨桶止めの首謀者は児玉村庄屋長蔵である旨届書写(嘉永三年正月)……………	172
83	地子年貢皆済の厳命を求める名古屋新田頭より郡奉行宛願書下書(明和六年四月)……………	173
84	名古屋新田年貢未納地の引上げを命じる町奉行所触書写(安永八年十二月)……………	174
70	春日井郡・愛知郡村々上納金届書および大代官役所宛春日井郡児玉村分上納請書控(安政三年九月)……………	151
71	知多郡大高村献金割賦帳(抄)(安政三年十月)……………	153
72	春日井郡小幡村村役賃米支払の記録(抄)(文政七年十二月)……………	155
73	春日井郡小幡村御用状送届の記録(抄)(文政八年正月)……………	160

第三節 城下と周辺村々

一 町のひろがりへの対応

三 村役

58	春日井郡小幡村入米高掛人別差引帳(抄) (文政四年十二月)……………	129
59	海東郡助光村下用割帳(天保十三年八月)……………	133
57	近年村方不締りに対する対策につき海東郡助光村惣百姓より村役人宛定書案文(慶応元年)……………	128
56	村方改革につき春日井郡枇杷島村高持中より役前衆中宛願書写(文久元年十一月)……………	126

85	名古屋新田引上げ地石高二〇五石余につき新田頭より代官宛 届書控(天明元年四月)……………	174
86	名古屋新田引上げ地支配につき新田頭より国方役所吟味役宛 伺書写(天明四年正月)……………	176
87	新田地主人数につき名古屋新田頭より国方役所吟味役宛届書 写(天明五年二月)……………	177
88	家計助成のため質屋相続したきにつき新田頭宗右衛門より庄 内代官役所宛願書控(寛政五年八月)……………	178
89	大代官役所より愛知郡末森村森次左衛門宛名古屋新田立合役 等申付け状写(文政元年)……………	178
90	名古屋新田頭兼松源藏金子借用証文写(天保十五年十一月) ……	178
	三 地域の諸問題への対応	
91	愛知郡末森村庄屋人選につき名古屋新田頭より大代官役所宛 意見書写(天保十年四月)……………	180
92	前庄屋諸勘定をめぐる争論につき愛知郡八事村庄屋より大代 官役所宛嘆願書写(文久元年二月)……………	181
93	未納役銀を年賦にて上納につき愛知郡本願寺村より大代官役 所宛請書写(文久元年九月)……………	182
94	愛知郡本願寺村再建のため地高請戻しにつき兼帯庄屋より大 代官役所宛上申書写(文久元年九月)……………	184
95	兼帯庄屋退役を求める名古屋村東畑分惣百姓より大代官役所 宛嘆願書写(慶応元年十二月)……………	185
96	兼帯庄屋退役一件につき内密に意見を求める庄屋円左衛門宛 通知書(慶応元年十二月)……………	187
97	兼帯庄屋退役一件につき庄屋円左衛門より大代官役所宛意見 書控(慶応元年十二月)……………	187
	四 地域指導層の記録	
98	春日井郡児玉村庄屋大矢作左衛門の日記 (文久二年九月から十一月)……………	189
85	第三章 新田と山・川	
	第一節 新田	
	一 新田開発	
99	海東郡藤高新田前新開築立方につき大代官より申渡し書 (文政五年正月)……………	200
100	海東郡藤高新田竣功時における赤飯配付の覚書 (文政七年十一月)……………	200
101	海東郡藤高新田絵図の覚書(文政八年)……………	201
102	愛知郡宝生新田前砂付開発許可につき大代官より名古屋城下 十社道家宛証文(文政十三年三月)……………	202
	二 新田村落	
103	愛知郡熱田新田高田畑覚帳(抄)(寛文七年二月)……………	203
104	海東郡藤高新田および同前新田町数改帳写(文政八年二月)……………	206
105	愛知郡熱田前新田地主および持高に関する記録(抄) (安政四年十一月)……………	207
	三 新田経営	
106	海東郡戸田村新開における地仲間の取決め証文写 (文化十三年十一月)……………	211
107	愛知郡源兵衛新田における享保十九年から寛保三年までの平 均出石の覚書(寛保四年)……………	213
108	愛知郡道徳前新田の普請記録(抄)(安政六年三月・四月)……………	213
109	一か年鳥殺生運上場とすることを求める愛知郡熱田前新田よ り大代官役所宛願書写(文久元年八月)……………	216
110	大鐘屋藤七海用留入金借用につき海西郡飛鳥新田地仲間よ り引請証文写(万延元年八月)……………	216
111	愛知郡宝来新田一口を担保とした岡田初蔵より神谷伝右衛門 宛借用金貸渡し証文写(嘉永五年二月)……………	217
112	愛知郡熱田新田幸左衛門ほかより信濃屋嘉八郎宛田地譲り渡 し証文(安政三年十二月)……………	218

126	愛知郡鳴海村山林地面譲り渡し証文(天保六年十二月)……………	229	140	宝来川譲り渡し証文(慶応四年四月)……………	250
125	名古屋新田内の獵師についての届書写(天明四年五月)……………	229	139	愛知郡高畑村地先荒子川通における密漁につき届書写(十二月)……………	249
124	遠江国気賀海辺における狩猟につき愛知郡平針村獵師より気賀関所宛約定証文(寛延三年)……………	228	138	愛知郡道徳前新田川請負につき海西郡狐地新田善六より同郡塩田村鷺尾善吉宛証文(文政六年四月)……………	248
123	控山小屋手百姓の宗門改につき下郷次郎八より鳴海代官所宛願書控(寅二月)……………	227	137	庄内川・新川川守申付け状(嘉永五年閏二月)……………	248
122	御林・定納山内の山屋敷につき御林奉行より愛知郡鳴海村宛証文写(安政五年四月)……………	226	136	二 河川の管理	
121	控山掟につき愛知郡末森村忠兵衛より水野太郎左衛門宛請書(慶応三年四月)……………	226	135	新川開削に伴い地割直しの延期を求める願書写……………	244
120	御林山縮り筋取決めにつき愛知郡平手新田より同郡鳴海村宛一札(安政五年八月)……………	225	134	自普請により新川堤防修復につき愛知郡下一色村西川忠兵衛宛褒状(辰十一月)……………	244
119	山賊の盗品を御林方役所より引渡しにつき愛知郡鳴海村預り証文写(文政十二年八月)……………	225	133	庄内川堤通絵図(抄)……………	238
118	定納山における火事の原因につき愛知郡八事村より御林方役所宛届書写(慶応四年三月)……………	224	132	尾州中切における御冥加普請場へ差し出した人足につき西村庄兵衛ほかより覚書(天明四年五月)……………	242
117	御林方役所宛願書下書(万延元年四月)……………	223	131	一 植川	
116	御林内の倒木伐採につき愛知郡鳴海村より御林方役所宛願書写(天保八年九月)……………	223	130	植田山における鹿狩の際の御林方役人の役割などの書上(抄)(安永二年正月)……………	233
115	愛知郡鳴海村惣山内訳につき鳴海代官所宛届書写(天保六年閏七月)……………	222	129	三 植田山	
114	愛知郡鳴海村下郷次郎八所持地の山方年貢申付け状(寛保三年十一月)……………	221	128	愛知郡鳴海村定納山譲り渡し証文写(元治元年十一月)……………	230
113	愛知郡熱田新田控地小作人替えの件につき高麗屋新三郎より訴状控(文久二年二月)……………	219	127	中根帯刀内浅野喜十郎より水野太郎左衛門宛愛知郡川名村山譲り渡し証文(安政二年九月)……………	229
			126	地境一件相熟につき知多郡有松村より同郡植廻間村宛取り替わし証文(天保十一年六月)……………	231
			125	二 山の管理	
			124	第三節 河川	
			123	一 河川	
			122	庄内川	
			121	新川	
			120	尾州中切	
			119	新川開削	
			118	自普請	
			117	庄内川	
			116	尾州中切	
			115	新川	
			114	自普請	
			113	庄内川	

三 杵・橋

- 141 愛知郡鳴海村杵書上帳(抄)(寛永十七年十月)……………250  
 杵作事場より愛知郡高針村宛杵材料送付状  
 (天保十四年閏九月)……………254  
 143 知多郡内海流着の新川通板橋取寄せにつき海東郡万場村より  
 普請方奉行所宛願書控(安政二年八月)……………256  
 144 熱田裁斷橋修復の仕様書および日雇方の仕様書写  
 (宝曆十二年・十三年)……………257

第四節 用排水

- 一 用水と排水  
 145 愛知郡柴田新田前新開用水引入れにつき同郡鳴海村宛取決め  
 証文(文化十五年五月)……………259  
 146 悪水落方の心得……………260  
 二 雨池  
 147 愛知郡島田村内に雨池を築立てたきにつき同村ほかより大代  
 官役所ほか宛願書写(丑五月)……………261  
 148 雨池締り人足代増額を求める愛知郡植田村雨池世話人佐平治  
 より小納戸役所宛願書(文久元年六月)……………262  
 149 愛知郡末森村猫ヶ洞池用水配賦につき同郡名古屋村東畑分よ  
 り大代官役所宛願書写(丑七月)……………263  
 三 井領米  
 150 新規用水にとまう井領米納入につき愛知郡南野村ほかより  
 四郎左衛門宛証文控(宝曆十三年三月)……………264  
 151 春日井郡瀬古村勝蔵組井領米割帳(天保十年)……………265  
 四 井筋・井組  
 152 海東郡藤高前田前新開への用水につき萱津井組より清須代官  
 所宛願書写(文政五年十月)……………265  
 153 海東郡藤高前新田開発につき前津橋之屋における萱津井組  
 村々への養応の記録(抄)(文政六年三月)……………268

五 用水をめぐる争い

- 154 井組離脱をめぐる海東郡助光村と同郡長須賀村ほかとの争論  
 につき済口証文写(安政五年二月)……………272  
 155 庄内川築留め取止めを求める春日井郡下小田井村より大代官  
 役所宛願書写(文久二年閏八月)……………273

第四章 経済

第一節 生業

- 一 農業・漁業・塩業  
 156 大高菜の栽培方法に関する知多郡大高村庄屋より鳴海代官所  
 宛届書写(享和三年八月)……………276  
 157 愛知郡名古屋村東畑分の畑地作付け帳(抄)  
 (天保十年十月)……………276  
 158 熱田羽城と知多郡西浦との漁場争論につき羽城漁師共惣代よ  
 り熱田奉行所宛願書写(嘉永元年六月)……………278  
 159 愛知郡下之一色村と伊勢との蛤漁場争論につき同村漁師より  
 大代官役所宛願書写(嘉永六年八月)……………279  
 160 前浜塩上納したきにつき愛知郡南野村・本地村塩問屋より野  
 方山方奉行宛願書写(寛延三年七月)……………281  
 161 愛知郡星崎六か村塩浜持へ拝借金下されたきにつき野方山方  
 奉行宛願書控(宝暦元年十一月)……………281  
 162 塩浜面積につき愛知郡南野村より野方山方奉行所宛届書控  
 (明和四年九月)……………282  
 二 特産物の生産と販売  
 163 有松絞り絞職仲間の規定書写(天保五年七月)……………284  
 164 知多郡有松村鈴木与左衛門より大坂河内屋六兵衛店宛有松絞  
 り染め代金の書上(嘉永二年四月)……………285  
 165 有松絞り屋一八軒からの肉料についての留書(安政頃)……………286  
 166 知多郡有松村・愛知郡鳴海村絞職より括り下職へ渡す絹布木  
 綿晒類につき触書写(安政四年十二月)……………287

179	名古屋町々男女奉公人の口入れ請判を肝煎へ申付けにつき触書(寛政七年八月)……………	303
178	名古屋下材木町材木屋惣兵衛店の店則改正案(万延元年三月)……………	301
177	名古屋赤塚町油商熊野屋の店則(文化十一年二月)……………	300
176	名古屋玉屋町水口屋の店則(文化二年正月)……………	299
175	担保とした琴三味線職株質流れにつき虎屋より浅田屋宛譲渡証文と添証文(嘉永二年四月)……………	297
174	信濃国・美濃国・三河国よりの荷物取扱いについての約定書雛形(天保七年)……………	297
173	尾張国・三河国・伊勢国・美濃国の鋳物師仲間による鍋釜統一値段取極め証文(文政元年十一月)……………	296
172	名古屋油小売仲間の申合せ書(文化八年十一月)……………	295
171	先納金下渡しにつき名古屋関鍛冶町荻井孫右衛門より願書控(明治五年六月)……………	294
170	木綿問屋磯貝忠右衛門家の由緒書(寛延三年三月)……………	293
169	尾張藩瀬戸染付焼蔵元麻屋禎助の瀬戸焼・美濃焼の諸国貸高調帳(慶応三年正月)……………	289
168	有松絞りの鳴海村および大高村の取次人に関する取決め書(明治二年)二月……………	288
167	呉服類木綿など預りにつき有松絞り取次職より絞り仕入職宛証文(明治二年二月)……………	287
<b>第二節 商人と株仲間</b>		
一 商人の由緒と系譜		
184	名古屋大船町知多屋新四郎店の資産台帳(安政四年)……………	309
183	名古屋広井花車町大野屋彦八郎の勘定書(天保十四年から十五年)……………	308
182	大丸名古屋店の営業日誌(宝暦三年五月)……………	306
181	名古屋同様奉公人肝煎を置きたきにつき愛知郡北一色村庄屋ほかより願書写(万延元年三月)……………	305
180	名古屋茶屋町伊藤次郎左衛門家の女奉公人の請判帳(抄)(文化年間)……………	304
二 商家の帳簿		
184	阿波・三河・美濃よりの藍荷物連上金取立て元につき他所藍問屋ほか宛申付け書写(文化六年四月)……………	312
183	名古屋関鍛冶町塩屋孫右衛門の信濃国・三河国荷物連上差上帳(天保八年正月)……………	313
182	二 魚と野菜	
181	變世話方引き請けたきにつき愛知郡下之一色村甚四郎らより大田官役所宛願書写(嘉永二年)……………	313
180	魚御用勤めたきにつき知多郡亀崎村魚問屋梶川権左衛門より願書写(六月)……………	315
179	熱田魚問屋三右衛門より知多郡亀崎村梶川権左衛門宛書状(七月)……………	315
178	素人への卸売りの禁止を求める名古屋八百屋惣代より問屋衆宛願書(文政十一年四月)……………	316
177	三 炭薪と肥料	
176	堀川通炭薪荷物取引差止めにつき名古屋葭町炭薪海船問屋より願書写(寛政八年十一月)……………	317
175	熱田新尾頭町の野尻理右衛門らの肥物荷物をめぐる争論和談一件記録(抄)(文政二年三月)……………	319
<b>第四節 市場と商取引</b>		
一 運上金		
184	名古屋茶屋町伊藤次郎左衛門家の女奉公人の請判帳(抄)(文化年間)……………	304
183	名古屋同様奉公人肝煎を置きたきにつき愛知郡北一色村庄屋ほかより願書写(万延元年三月)……………	305
182	大丸名古屋店の営業日誌(宝暦三年五月)……………	306
181	名古屋関鍛冶町塩屋孫右衛門の信濃国・三河国荷物連上差上帳(天保八年正月)……………	313
180	二 魚と野菜	
179	變世話方引き請けたきにつき愛知郡下之一色村甚四郎らより大田官役所宛願書写(嘉永二年)……………	313
178	魚御用勤めたきにつき知多郡亀崎村魚問屋梶川権左衛門より願書写(六月)……………	315
177	熱田魚問屋三右衛門より知多郡亀崎村梶川権左衛門宛書状(七月)……………	315
176	素人への卸売りの禁止を求める名古屋八百屋惣代より問屋衆宛願書(文政十一年四月)……………	316
175	三 炭薪と肥料	
174	堀川通炭薪荷物取引差止めにつき名古屋葭町炭薪海船問屋より願書写(寛政八年十一月)……………	317
173	熱田新尾頭町の野尻理右衛門らの肥物荷物をめぐる争論和談一件記録(抄)(文政二年三月)……………	319

四 酒造と尾州糠

193 江戸積酒樽をめぐる名古屋・熱田と鳴海・知多の酒屋との入組内清一件留(抄) (寛政六年十一月)…………… 323

194 知多酒ほか堀川への入津酒世話勤めたきにつき今井屋富太郎より願書写(弘化四年四月)…………… 330

195 製品検査につき県内酒造家惣代による申合せ書 (明治六年十一月)…………… 331

196 他所積米糠を知多郡同様に取扱いたきにつき鳴海組酒造大行事らより願書写(安政七年正月)…………… 332

197 名古屋糠問屋美濃屋彦右衛門より江戸下り糠問屋越前屋清吉宛書状(七月)…………… 334

198 江戸下り糠問屋越前屋清吉より武蔵国新座郡館村西川武左衛門宛書状(三月)…………… 335

199 糠の違法売買につき海東郡中一色村柳助の申立て書 (戊五月)…………… 335

200 名古屋広井花車町米吉ほか糠に砂を混ぜ入れ不埒につき申渡し書…………… 336

五 木綿と線綿

201 江戸積木綿荷物直取引についての名古屋水口屋伝兵衛らよりの約定書(文化四年七月・同五年九月)…………… 338

202 名古屋棧留綿問屋と日野屋名古屋店らとの棧留綿の江戸積をめぐる一件記録(文政八年 九月)…………… 340

203 江戸太物問屋らより美濃屋勤七宛江戸積荷物についての心得書(安政三年十二月)…………… 343

204 名古屋鉄砲塚町佐野屋佐兵衛の繰綿株および江戸積株入手についての記録(抄) (天保九年正月)…………… 343

第五節 物価と金融

一 物 価

205 諸色引下げ値段の調帳(天保十三年四月)…………… 345

206 焚味噌小売の店別引下げ値の書上写(元治元年七月)…………… 354

二 金 融

207 知多郡大高村長寿寺祠堂金預りにつき西大高村より代官吉田権左衛門宛証文写(天和四年正月)…………… 356

208 氏神拝殿再建につき愛知郡相原村惣代より久野氏頼母子連中宛頼母子金預り証文写(嘉永元年三月)…………… 357

209 久野氏頼母子の質物差し詰りにつき担保として控地所を差し出す手形(嘉永元年三月)…………… 358

210 大坂上り廻船問屋の住栄講の規約…………… 359

第五章 交通

第一節 陸上交通

一 東海道

211 御書箱・御用物への押書徹底につき東海道・佐屋路の尾張六宿による議定書上(文化十四年九月)…………… 362

212 宿困窮のため無利息拝借したきにつき鳴海宿ほかより大代官役所宛願書写(抄) (天保七年九月)…………… 363

213 馬士の風儀肅清など馬士取締りに関する大代官役所より触書写(文政四年五月)…………… 366

214 讃岐高松藩主万場川渡船時における浦水主への酒代金につき船庄屋より届書控(文政十一年六月)…………… 367

215 怪しき者召捕りに関する廻状承知につき鳴海宿問屋より組合宿々取締役宛書状写(安政五年五月)…………… 370

二 名古屋と脇往還

216 愛知郡平針村東海道の伝馬宿取立てにつき尾張藩国奉行より同村町中宛定書(慶長十七年閏十月)…………… 371

217 平針宿の新馬役一六匹分の内一匹分を下郷弥兵衛へ譲り渡す証文控(安永九年十二月)…………… 371

218 拳母藩主平針街道通行時の御定賃銭継続してに関する書留 (天保十一年八月)…………… 372

219 鳴海往還と平針往還をつなぐ道欠所につき函面通り取開きたきにつき願書写(文久二年八月)…………… 373

220	駿河街道往還松並木整備につき往還方役所より触書写 （正月）……………	376
221	小牧往還西行橋石橋への架け替えにつき春日井郡中杉村より 往還方役所宛願書控（安政三年八月）……………	377
222	荷物取次を取締りたきにつき名古屋押切町通商人木質宿鍋屋 惣吉より願書写（慶応元年閏五月）……………	378
223	三 中馬と信州 中馬荷物ならびに口銭中馬稼村名・馬数等申渡し書写（抄） （明和元年十二月）……………	378
224	須原宿長右衛門ら名古屋より松本行荷物取扱いを願うにつき 信州問屋より口上書控（天明三年四月）……………	384
225	松本より名古屋行仁科麻荷物の継問屋を勤めるにつき賛川宿 賛川清右衛門より一札（寛政元年八月）……………	385
226	麻荷物の名古屋延着を吟味につき松本荷物継問屋より大町客 衆宛宛書（寛政四年七月）……………	386
227	山中麻目方不足につき大坂麻苧仲間より名古屋問屋中宛宛書 写（文化四年七月）……………	386
228	名古屋町々の水揚げ駄賃銭につき触書写（万延元年九月）……………	387
229	四 飛脚・定宿講 三郡定飛脚問屋小島権兵衛と同貝谷権左衛門との内洛取り替 わし証文（安政三年十一月）……………	388
230	尾州真菅組の主意書……………	391
231	『尾州真菅組定宿之記』にある諸国近在飛脚書上……………	392
232	名古屋町々の飛脚業人員書上（明治四年）……………	393
233	第二節 水上交通 一 熱田湊と河川水運 尾張藩付家老成瀬家による熱田湊常夜灯奇進に関する記録 （抄）（寛政三年五月）……………	394
234	愛知郡御器所村新川通杖作事につき熱田神領地特惣代より願 書写（文政八年五月）……………	401
235	船番所への出入を求める瓦商売締役より願書写 （嘉永元年十二月）……………	402
236	堀川を通行する船の荷改め改正につき申渡し書写 （巳十二月）……………	403
237	堀川沿いの雲心寺境内が白鳥材木場に借上げとなった一件 記録（慶応三年）……………	404
238	新川を通行する際の役銭上納を厳命する船手役所より触書写 （未八月）……………	406
239	新川・庄内川筋へ船会所譲るにつき東福田新田船改役所より 大代官役所宛願書写（嘉永七年二月）……………	407
240	名古屋屋敷町桑名屋伊右衛門の大垣行荷物独占取扱いを求める 願書に関する記録（天明六年）……………	408
241	美濃国上有知湊より熱田湊までの樞板送り状 （文化三年十二月）……………	409
242	二 廻船と伊勢湾海運 名古屋屋敷町炭屋清次郎所持の艀船破船一件記録（抄） （寛政三年二月）……………	410
243	尾州小早船仲間が奉納した志摩国青峰山正福寺常夜灯銘文 （寛政十二年九月）……………	412
244	顧客および会所の設置・運営についての大坂上り廻船問屋七 軒による取決め証文（享保九年閏四月）……………	413
245	大坂廻船問屋職売り渡すにつき白子屋甚左衛門より仲間衆宛 一札（享保十五年二月）……………	414
246	大坂表不案内のため大坂廻米を断りにつき野間船ほかより大 坂上り廻船問屋宛一札（享保十二年）……………	414
247	江戸行酒積をめぐる名古屋廻船水主の内輸入組一件記録 （安永八年）……………	415
248	近江八幡扇屋の江戸行荷物難船につき届書写 （嘉永元年十一月）……………	420

第六章 寺院と神社

第一節 寺社の組織と運営

一 本末関係

249	春日井郡勝川村地藏寺末太清寺の寺号につき届書写 （寛文元年十一月）……………	262	知多郡平島村地藏堂への寺号譲渡につき熱田今道村実相院の金子請取証文（延享四年八月）……………
250	春日井郡守山村長母寺と同郡勝川村地藏寺・熱田天祥庵本末異論につき覚書（寛文五年十二月）……………	263	京都知恩院直末願につき知多郡平島村如意輪寺より郡奉行所宛願書控（延享五年六月）……………
251	末寺不法につき宝生院より寺社奉行所宛嘆願書 （天保八年八月）……………	264	妙誓名跡助成金につき津島河内屋甚右衛門の受取証文写 （文化九年九月）……………
252	尾張四観音の内愛知郡荒子村観音寺直達につき願書写および申渡し書写（寛延三年八月・九月）……………	265	熱田白鳥町薬師堂堂守に関する熱田奉行所宛諸願書写 （弘化四年・嘉永元年）……………
253	仲間五坊と同様町方の取次なく願書進達したきにつき名古屋円教寺より願書写（宝暦四年二月）……………	266	清蓮寺修復のため栄寿尼を後住にしたきにつき春日井郡下飯田村より願書控（嘉永四年十月）……………
254	宗門一札本坊へ差出したきにつき愛知郡鳴海村浄泉寺より寺社奉行所宛願書控（天保十一年三月）……………	267	愛知郡中須村観音堂に堂守置きたきにつき栄国寺より寺社奉行所宛願書写（嘉永五年閏二月）……………
255	伊勢国高田専修寺門主の江戸参向につき万場川での馳走に関する記録（元治二年）……………	268	掟米滞り出入につき愛知郡中須村観音堂堂守より大代官役所宛訴状控（安政三年十月）……………
256	建中寺御願番人父子交替を求める同組頭より嘆願書写 （四月）……………	269	平田寺山小屋住まい妙心尼の盗難品につき春日井郡小幡村より水野代官所宛届書写（文政七年九月）……………
257	名古屋熱田ほか寺社および修験人数改につき書上 （天保十二年十月）……………	270	勤行のため興正寺より尼僧差し遣わすにつき取り替わし証文 （天保十五年三月）……………
258	二 神職の仲間 名古屋城下十社座順につき願書写……………	271	庵室家屋・敷地米代金などにつき興正寺より坂野儀八郎宛請取書覚書（嘉永五年二月）……………
259	愛知郡鳴海村成海神社社主任官につき同社より鳴海代官所宛願書写（寛政六年十二月）……………	272	愛知郡稲葉地村阿弥陀堂堂守地につき大代官役所宛諸願書写 （文久三年九月から慶応四年六月）……………
260	神職装束などにつき愛知郡鳴海村成海神社社主より鈴鹿筑前守ほか宛書状写（正月）……………	273	二 第二節 地域社会と寺社 一 信仰と祈願
261	三 尼・堂守 知多郡平島村地藏堂熱田実相院末寺尼寺取立てにつき寺社奉行所宛願書下書（延享四年七月）……………	274	沢之観音を預けるにつき如法院より証文写（寛文七年四月）……………
		275	笠覆寺塔頭東光院に三河国渥美郡杉山村天津新田成就の祈禱依頼につき書状（二月）……………
			門主への御目見独礼を求める知多郡阿野村医師三田無忍より輪番所宛願書写（丑三月）……………
440		441	
439		442	
438		443	
436		444	
435		445	
433		446	
427		447	
427		448	
427		449	
423		449	
423		450	
422		451	
		451	
		452	



292	多度神社配札に関する春日井郡西杉村庄屋より届書写……………	467			
291	秋葉権現万灯講定……………	465			
290	秋葉と名乗ることなどにつき秋葉山執事より申渡し書 （巳十二月）……………	465	306	宮司宛届書写（延宝五年五月）……………	503
289	江戸にて御嶽講吟味につき尾張藩領分の者へ心得方触書写 （文政四年八月）……………	464	305	水上姉子社破損修復につき同社社人より奉行所宛申上げ書控 （寛永十二年十二月）……………	503
288	陰陽道など諸信仰に関する清寿院より触書写 （文政七年・八年）……………	463	304	天台社僧支配の堂社および本尊など書上……………	502
287	鉢ひらき渡世しきにつき海東郡蟹江本町村庄屋より宝泉寺 宛一札（享保十八年五月）……………	463	303	神幸道の新設および神金下されたきにつき熱田神職より大宮 司宛願書（元文四年五月）……………	501
286	三 広域的な信仰		302	古法に復し神事祭礼務めたきにつき社僧中より密蔵院宛願書 写（宝永七年二月）……………	500
285	笠覆寺地所内の古塚の場所につき覚書（七月）……………	461	301	二 社僧の活動	
284	建中寺寺領庄屋を直達とされたきにつき同寺役者より願書写 （文久元年十二月）……………	462	299	熱田社内証古今留書（抄）……………	477
283	愛知郡御器所村宗円寺先住風外所持の借家を町奉行所支配と するにつき請書控（嘉永二年十二月）……………	459	298	一 神職の活動	
282	名古屋飯田町天道宮別当寿命院後住につき同町代より願書 控（天保十一年十月）……………	460	297	熱田社内証古今留書（抄）……………	476
281	名古屋広井西水主町法蔵寺由緒書（弘化四年十一月）……………	458	296	相対勸化につき熱田神職馬場左京より願書写および寺社奉行 所より返書写（文政十三年九月）……………	475
280	顕性寺の移転に関する記録（延宝三年から元禄六年）……………	455	295	広敷代参の節神前御用仰せ付けられたきにつき熱田神職馬場 左京より願書控（天保五年十二月）……………	475
279	名古屋広井西水主町法蔵寺控地に借家取建てにつき尊寿院よ り寺社奉行所宛願書写（文政三年九月）……………	457	294	熱田太々御師栗田国雄大夫講金取締り方につき書上……………	499
278	二 寺社領等の経営		293	二 社僧の活動	
277	泥江縣神社棟札写（宝暦十一年三月）……………	454	292	古法に復し神事祭礼務めたきにつき社僧中より密蔵院宛願書 写（宝永七年二月）……………	500
276	美濃国加茂郡信友村遍照院を興正寺支配とするにつき同村よ り興正寺宛証文（享保六年十二月）……………	452	291	神幸道の新設および神金下されたきにつき熱田神職より大宮 司宛願書（元文四年五月）……………	501
	石神社内に住吉社勧請につき広井天主社より願書写 （宝暦六年正月）……………	453	290	天台社僧支配の堂社および本尊など書上……………	502
	三 熱田と結ぶ諸社		289	水上姉子社破損修復につき同社社人より奉行所宛申上げ書控 （寛永十二年十二月）……………	503
	西宮神社尾張支配所分修理料の徴収帳（宝暦十年十二月）……………	470	288	朱印状ほかの写を公儀へ差上げにつき水上姉子社社人より大 宮司宛届書写（延宝五年五月）……………	503
	撰津国西宮神社尾張触頭の跡役に関する記録 （文政十二年十二月）……………	472	287	鉢ひらき渡世しきにつき海東郡蟹江本町村庄屋より宝泉寺 宛一札（享保十八年五月）……………	463
	西宮恵比須神社名古屋橋町裏町に再建につき神祇役所宛願書 控（明治元年十月）……………	473	286	建中寺寺領庄屋を直達とされたきにつき同寺役者より願書写 （文久元年十二月）……………	462
	普化宗門取締りにつき普大寺取締役名古屋日置内藤金吾より 証文（嘉永六年九月）……………	475	285	笠覆寺地所内の古塚の場所につき覚書（七月）……………	461
	娘しまを梓神子の弟子とするにつき春日井郡児玉村つやより 習合家宛証文写（文久元年十月）……………	476	284	名古屋飯田町天道宮別当寿命院後住につき同町代より願書 控（天保十一年十月）……………	460
			283	愛知郡御器所村宗円寺先住風外所持の借家を町奉行所支配と するにつき請書控（嘉永二年十二月）……………	459
			282	名古屋広井西水主町法蔵寺由緒書（弘化四年十一月）……………	458
			281	顕性寺の移転に関する記録（延宝三年から元禄六年）……………	455
			280	二 寺社領等の経営	
			279	泥江縣神社棟札写（宝暦十一年三月）……………	454
			278	石神社内に住吉社勧請につき広井天主社より願書写 （宝暦六年正月）……………	453
			277	美濃国加茂郡信友村遍照院を興正寺支配とするにつき同村よ り興正寺宛証文（享保六年十二月）……………	452

307 熱田社遷宮神役務めにより宗門人別を神職組合連印にて差し出したきにつき願書写(文政元年十月)……………504

第七章 生活

第一節 家

一 由緒と家格

308 愛知郡鳴海村下郷次郎八家の由緒についての届書写  
(文化五年閏六月)……………508

309 吉田新三郎より新御殿への雪見灯笼献上および御深井焼花器頂戴に関する記録(天保四年)……………511

310 由緒をもつて長州戦争に関わる諸役免除を求める水野太郎左衛門より願書写(慶応元年十一月)……………514

311 名古屋新田開発由緒にて同新田頭に差し置かれたきにつき小塚理三郎より願書写(明治四年十二月)……………515

312 有松紋り創始等の由緒にて宗門自分一札などを求める知多郡有松村竹田庄九郎より願書写(巳三月)……………516

二 家の相続

313 知多郡有松村竹田庄九郎家の相続にあたり代々申し伝えるべき添書および心得書(天保十一年九月)……………517

314 本家惣兵衛家と分家惣三郎家の関係を取り決めた五代鈴木惣助より届書(天保十二年五月)……………518

315 木屋新八を升屋半三郎家と材木屋惣兵衛家の共有の分家とする約定書(安政五年・明治二年)……………519

316 海東郡茶屋後新田小右衛門家の相続をめぐる訴訟一件記録(文久二年)……………520

317 次男養家と入組の結果引き請けた万歳檀那場等につき知多郡大高村宇右衛門より口上書(辰十一月)……………524

三 家の記録

318 両口屋是清大島家の年代記(寛永十一年から明治五年)……………528

第二節 家族

一 冠婚葬祭と通過儀礼

319 伊藤次郎左衛門家の娘への抱瘡見舞の記録(抄)  
(安永六年正月)……………541

320 吉田新三郎家の娘の慶事の記録(抄)(安政三年二月)……………543

321 吉田新三郎家の祝儀および贈答の記録(抄)  
(明治元年から三年)……………547

322 橋本家の娘の弔事の記録(抄)(明治三年二月)……………551

二 家族のあり方

323 愛知郡五女子村治兵衛母への不孝吟味を求める願書内済により取下げたき願書写(慶応二年十一月)……………553

324 妹の離縁手続を進めることを求める愛知郡名古屋新田長左衛門より願書写(卯十月)……………553

第三節 暮らし

一 家作と家財

325 春日井郡小幡村伊右衛門母の衣類ほか盗難につき水野代官所宛届書写(文政八年十二月)……………555

326 吉田新三郎家下女さよの盗難被害品の届書控  
(嘉永四年十月)……………556

327 愛知郡鳴海村の樽職人の家財道具につき大代官役所宛届書控(嘉永四年四月)……………557

328 相応寺東新町の辻番夫婦行方不明につき家財道具処分の記録  
(嘉永四年四月)……………558

329 知多郡有松村与左衛門の家財道具の売立て目録(戊二月)……………560

330 味噌屋渡辺家所持の道具書上(抄)……………563

331 名古屋新田地内に梓のため居宅新築したきにつき大代官役所宛願書控(亥七月)……………566

二 日々の暮らし

332 愛知郡鳴海村下郷善右衛門の日記(明和四年正月)……………567

333	愛知郡鳴海村下郷家の年中行事の記録(寛政十三年正月)……………	572
334	愛知郡鳴海村下郷善右衛門の日記 (文化八年七月から八月・十月)……………	573
335	鋤物師頭水野太郎左衛門家の正月の記録(文化十四年正月)……………	586
<b>第八章 社会</b>		
<b>第一節 身分と諸集団</b>		
一 さまざまな身分		
336	熱田非人頭喜六への対応につき触書写(宝暦九年十月)……………	590
337	知多郡大高村の家数・人数ほか書上帳(抄) (安永三年三月)……………	590
338	名古屋朝日町の居住者に関する記録(享和三年)……………	593
339	乞食頭ら着用の衣類の色合いにつき触書(天保十四年二月)……………	594
340	熱田朱印番所門前にて行き倒れの非人坊主に関する記録 (嘉永三年十一月)……………	595
341	入牢した海東郡万場村の番非人の負担免除を求めた記録 (安政二年)……………	595
342	五条橋台際に孤困いの非人につき吟味を求めた町代より願書 (明治二年または三年)……………	596
343	愛知郡南野村の番人を百姓身分へ取立てたきにつき村内引請 人より願書(明治二年九月)……………	597
二 諸集団		
344	名古屋赤塚町の若者組加入手続きなどに関する約定書写 (天保九年八月・九月)……………	598
345	町の借財のため祭礼道具を担保とした名古屋元材木町若者よ り借用証文写(嘉永六年八月)……………	599
346	愛知郡八事村の若者組の掟書(安政二年八月)……………	601
347	若者組をめぐる村との入組につき吟味を求める愛知郡古渡村 下之切綿屋儀蔵より願書写(卯八月)……………	602
348	名古屋伝馬町居住の盲人弁隆偽の薬種販売につき処罰仰渡し 書(享和三年九月)……………	603
349	盲人順在につき春日井郡下小田井村盲人より愛知郡一色村宛 取決め証文(万延元年閏三月)……………	604
<b>第二節 社会の秩序と変容</b>		
一 社会の成り立ち		
350	熱田に乞食のため御救い小屋取建てにつき寺社奉行より申渡 し書写(延宝三年四月)……………	605
351	富士代屋又吉ほかを奇特者として褒賞につき触書写 (安政四年六月・七月)……………	605
352	愛知郡鳴海村における捨子の処遇に関する記録 (安政六年五月・六月)……………	607
353	山同心の凶作に関する記録(万延二年二月)……………	611
二 社会の諸相		
354	差入組中に上京した愛知郡広井村庄屋久兵衛に関する調書 (元治元年十月)……………	613
355	尾張藩士ほかに関する落書(天明年間)……………	616
356	知多郡有松村絞職宅での博奕の際に紛失した絞り反物につき 吟味を求める願書(子五月・六月)……………	618
357	博奕で大借の名古屋中下戸田町の傘屋の窃盗と博奕隠蔽に関 する記録……………	620
358	福引商いほかからの歩銭取立につき野師世話人および惣内・ 小頭の供述書(三月)……………	621
359	無宿人清七が犯した窃盗についての供述書(戊二月)……………	622
<b>第三節 災害</b>		
一 地震		
360	『世直し草紙』(文政二年八月)……………	626



386	愛知郡南野村医師柴田春篤『孫子通解』出版につき大代官役所宛願書および届書写(慶応二年正月)……………	706
387	名古屋本町貸本屋大野屋惣八より笹屋町并桁屋彦兵衛宛貸本見料の受取書……………	707
388	書籍代金ほかにつき名古屋橋町吉田新三郎宛書状(四月)……………	708
<b>第二節 俳諧にみる地域</b>		
389	二条家における句会の発句および席次図(寛政二年九月)……………	709
390	芭蕉翁正当忌日俳諧の歌仙(文政七年十月)……………	710
391	『ひのきかさ』序文(文政九年)……………	711
392	井上士朗二十三日忌追善俳諧興行における執筆作法(嘉永五年九月)……………	712
393	『双尾集』(万延元年十一月)……………	713
<b>第三節 医療</b>		
394	春日井郡岩崎村医師丹羽泰安の名古屋城下での活動につき願書写(文政十年十一月・天保五年六月)……………	717
395	肥前瘡流行のため薬風呂設置したきにつき鳴海村医師より鳴海代官所宛願書控(天保七年十二月)……………	718
396	名古屋橋町麻生種痘館による種痘の効用書写(嘉永三年正月)……………	719
397	名古屋鉄砲塚町小西長兵衛調合の暑氣払薬販売につき願書写(安政五年六月)……………	719
398	明国出身の医師の経歴につき鳴海医師より鳴海代官所宛届書控(亥二月)……………	720
<b>第四節 祭礼と民俗</b>		
一 祭礼		
399	熱田八か村の祭礼に関する記録(元禄十二年二月)……………	721
400	名古屋東照宮祭礼の掟書写(慶応三年四月)……………	729
401	名古屋広井八幡社祭礼の賑いを取り戻すため祭車に手を加えて出したきにつき願書(未七月)……………	730
二 農耕儀礼		
402	給人志水家より依頼の雨乞い執行に関する水上姉子社社人の記録(抄)(宝暦から文化年間)……………	730
403	美濃国洲原神社常夜灯の銘文(安政六年十一月)……………	733
404	熱田神領での虫送り執行につき仰渡し書写(文化十年六月)……………	735
三 町・村の民俗		
405	熱田旗屋町における名替の執行方法および祝儀の記録(抄)(寛政八年二月)……………	735
406	御宇流しの混乱防止のため昼間に疫神祭執行したきにつき洲崎天王社より願書(文化三年四月)……………	740
407	竜泉寺へ奉納した馬の塔の記録(明治五年九月)……………	741
408	元服名替の祝い簡素にすべき旨仰付けを請けた熱田旗屋町町人連判状……………	743
<b>第五節 文化の交流</b>		
一 名古屋のにぎわい		
409	京都の風俗や御冥加普請につき中島長左衛門より伊藤千次郎宛書状(天明三年十二月)……………	744
410	「知多日記」(抄)(文政十一年)……………	746
411	サンフランシスコより永栄丸持帰りの品を天寧寺にて展覧したきにつき願書控(安政七年三月)……………	757
412	名府流行珍奇混雑(見立番付)(天保七年)……………	758
413	名府流行珍奇混雑(見立番付)(慶応元年)……………	759
414	尾張年中神仏聯合数望寄(見立番付)……………	760
415	常芝居小屋存続のため名古屋橋町・橋町裏町に限り芝居興行許可仰付られたき旨願書控(亥十月)……………	761
416	名古屋橋町裏町芝居小屋新築に伴う若宮社ほかにおける興行の扱いに関する願書控(午八月)……………	762

417	名古屋で流行の食べ物および飲食店についての評判記……………	764
418	二人・モノの交流	
419	竜泉寺開帳の際の興行に関する記録(延享五年二月)……………	766
420	名古屋東寺町宝泉寺再建助成のため軍書講釈したきにつき願書控(弘化三年九月)……………	767
421	名古屋伊倉町福泉寺修復助成のためくじ富興行につき願書写(弘化三年九月・嘉永元年七月)……………	768
422	矢田川出水に伴う小橋設置のための資金集めにつき相撲興行案内(巳九月)……………	769
423	荒子観音寺参詣者のための巡礼宿開業したきにつき願書写……………	770
424	名古屋城城門へ這い入った伊勢国三重郡五味塚村源蔵ほかの供迷書(二月)……………	771
425	法事用の名古屋菓子注文についての覚書……………	770
426	鳴海代官所預り金借用につき下郷次郎八より前之庵清吉宛証文(嘉永五年十二月)……………	774
427	代官所建替えの際の見廻り役免除を求める鳴海村惣代ほかより鳴海代官所宛願書写(安政六年九月)……………	774
428	鳴海代官所上様式の記録(文久二年閏八月)……………	776
429	二 鳴海村の様相	
430	水難による未進米増加のため鳴海村高持百姓の年貢減免につき鳴海宿より願書写(安永九年十一月)……………	781
431	愛知郡鳴海村下用書上帳(文化十四年十二月)……………	785
432	愛知郡鳴海村庄屋の役務につき書上(文化十二年二月)……………	786
433	愛知郡鳴海村前之庵の掟書写(天保二年正月)……………	789
434	愛知郡鳴海村高持共相続につき同村六役下郷弥兵衛より建言書写(申十一月)……………	790
435	庄屋役兼惣年寄格締役勤め難きにつき嘆願書(天保十四年二月)……………	792
436	愛知郡鳴海村の宿・村役人の役務心得などにつき鳴海代官所より仰渡し書写(嘉永四年二月)……………	794
437	愛知郡鳴海村渡世難しきにつき村役人評議による儉約などについての取決め書(嘉永六年八月)……………	796
438	村内商人宿・郷宿許可年につき愛知郡鳴海村庄屋より鳴海代官所宛返答書(元治元年四月)……………	798
439	愛知郡鳴海村庄屋退役と六役就任につき同村庄屋惣年寄より願書写(慶応元年九月)……………	799
440	愛知郡鳴海村下見役の経歴につき同村庄屋より御林方役所宛届書写(文政十二年三月)……………	800
441	愛知郡鳴海村の寺社の輩・山伏の人数書上帳(嘉永五年二月)……………	801
442	鳴海代官所の檻の設置に関する規定書(嘉永四年六月)……………	802
443	鳴海代官所元檻番和吉よりの助成嘆願への対応に関する鳴海代官所手代の記録(安政元年六月)……………	803
444	愛知郡鳴海村番人和吉困窮につき手当を求める同村庄屋より鳴海代官所宛願書下書(慶応元年六月)……………	804
445	死馬の処理につき愛知郡鳴海村えた惣代より同村宛願書(子十二月)……………	806
446	愛知郡鳴海村下郷次郎八所持の山に居住する被官百姓につき同人より鳴海代官所宛届書控(丑正月)……………	806
447	二 鳴海宿と東海道	
448	幕府より鳴海宿への助成金などの記録(抄)……………	808
449	三河国碧海郡今岡村小兵衛鳴海宿へ引越しにつき同村庄屋らより宗門送り一札(正徳五年十一月)……………	810

## 第十章 鳴海

### 第一節 鳴海代官所と地域

#### 一 鳴海代官所

### 第二節 鳴海の交通と産業

#### 一 鳴海宿と東海道

細目次

447	鳴海宿火災につき道中奉行への報告書（文化八年二月）……………	811
448	鳴海宿旅籠屋および木賃宿の宿泊者改め方につき規定書 （嘉永七年）……………	812
449	鳴海宿東問屋場再建を求める同宿問屋より鳴海代官所宛願書 写（安政二年二月）……………	813
450	鳴海宿の東人馬継立所再建への賛同を求めるにつき鳴海宿より 同宿定助郷惣代宛廻状（安政二年四月）……………	814
451	鳴海宿宿方より下郷次郎八ら預りの伝馬新田讓渡証文の添証 文（弘化四年十一月）……………	815
452	鳴海宿伝馬新田金の調達に関する記録（明治四年十月）……………	816
453	鳴海宿旅籠屋図……………	821
454	二 鳴海の産業と経済 下郷勘左衛門分の江戸行船に積む酒樽の増数書上 （寛政六年十二月）……………	823
455	下郷次郎八が江戸で仕入れた伊丹酒を東屋三平名古屋で販売 したきにつき願書写（文政二年閏四月）……………	824
456	不風味なきよう酒荷物積出し願うなどにつき鳴海下郷次郎太 より江戸店父宛書状（天保十三年四月）……………	825
457	愛知郡鳴海村下郷次郎太江戸店出店の経緯につき届書写 （安政五年十二月）……………	828
458	株仲間解散後も引続き扇川へ入津の諸荷物捌方取扱いを求め る願書写（安政元年四月）……………	829
459	伊勢国桑名郡長島領よりの拝借金につき取次依頼書写および 青蓮院宮祠堂金借用証文写（文化三年）……………	830
<p>第三節 鳴海の祭礼と文化</p>		
<p>一 鳴海の祭礼と文化</p>		
460	愛知郡鳴海村祭礼の由来書……………	832
461	愛知郡鳴海村下郷善右衛門の日記（文化六年六月）……………	834
462	愛知郡鳴海村北浦組中老および若者書上（文政二年六月）……………	840
463	愛知郡鳴海村相原町祭礼帳（天保三年から弘化三年）……………	841
464	長島藩主増山正賢下郷次郎八宅を訪問につき屋敷内盛飾書上 （天明四年八月・同六年九月）……………	846
<p>二 鳴海俳壇</p>		
465	「ほしさきの」芭蕉発句自画賛……………	848
466	門人万古に故翁の遺墨お見せ下されたきにつき大島蓼太より 和菊宛書状（五月）……………	848
467	笠覆寺奉納額一件につき下郷蝶羅より和菊ら宛書状（六月）……………	849
468	大高社中歳旦（寛政二年）……………	849
469	蕉翁木像開眼正式および芭蕉像開眼話（寛政八年二月）……………	850
470	芭蕉木像に関する知多郡草木村大巢より同郡常滑村巨春宛書 状（九月）……………	853